

アイヌ施策推進交付金事業計画

1 事業名	室蘭市アイヌ施策推進事業
2 事業の種類	(文化振興事業) (地域・産業振興事業) (コミュニティ活動支援事業)
3 事業の目的	アイヌ文化を保存、継承、振興するとともに、アイヌ民族の歴史や文化に対する市民の理解を深めることにより、アイヌの人々の民族としての誇りが尊重される共生社会の実現を目指す。
4 事業の概要	(1) 文化振興事業 ■「室蘭ふるさと学習」推進事業 【アイヌ文化学習見学会（民族共生象徴空間ウポポイ）】 ○事業実施主体 北海道室蘭市 ○事業の実施場所 白老町民族共生象徴空間ウポポイ ○事業の実施期間 令和7年4月～令和8年3月 ○事業の内容と考え方 「室蘭ふるさと学習」の一環として、市内の小中学生（教員含む）が民族共生象徴空間ウポポイへの学習見学会を開催し、体験学習を通じて先人達が築いたアイヌ文化に触れることで子ども達が歴史や文化への興味・関心や理解を深めるとともに、アイヌ文化の振興及びアイヌの伝統等の普及啓発を図る。 (3) コミュニティ活動支援事業 ■ アイヌ文化普及啓発事業 【アイヌ文化体験学習会（イタンキ生活館）】 ○事業実施主体 北海道室蘭市 ○事業の実施場所 室蘭市イタンキ生活館 ○事業の実施期間 令和7年4月～令和8年3月 ○事業の内容と考え方 小学生以上を対象に公募した参加者10名がイタンキ生活館を会場に、アイヌ文様の切り絵とアイヌ文様の布を挟み込んだ缶バッジ製作及びストラップ等の製作体験を通じて、アイヌ文化を知る機会を提供し、共生社会の実現を目指す。
5 アイヌ施策推進地域計画における記載	4-2 アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業 ■アイヌ文化学習見学会（民族共生象徴空間ウポポイ）・・・「ふるさと学習」推進事業の一環として行っている市内小中学校の児童生徒、教員等を対象とする民族共生象徴空間ウポポイへのアイヌ文化学習見学会を開催し、アイヌ文化の理解を促進する。 4-4 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業 ■アイヌ文化体験学習会（イタンキ生活館）・・・アイヌ文化普及啓発事業として身近な地域でアイヌの歴史や文化に関する市民の理解促進を図るため、公募した参加者（小学生以上〔※小学生は保護者同伴〕を対象）が、アイヌ文化体験（アイヌ文様の缶バッジと切り絵制作等）学習会に参加してイタンキ生活館で開催する。
6 事業の成果目標等	
(1) 成果目標の達成に向けた工程	(1) 文化振興事業 ■アイヌ文化学習見学会（民族共生象徴空間ウポポイ）・・・「ふるさと学習」推進事業の一環として行っている市内小中学校の児童生徒、教員等を対象とする民族

	共生象徴空間ウポポイへのアイヌ文化学習見学会を開催し、アイヌ文化の理解を促進することを目的として行う事業であり、体験の機会により効果が高まると考えられる。 (3) コミュニティ活動支援事業 ■アイヌ文化体験学習会（イタンキ生活館）・・・小学生以上を対象に公募した参加者10名がイタンキ生活館を会場に、アイヌ文様の切り絵とアイヌ文様の布を挟み込んだ缶バッジ製作及びストラップ等の製作体験を通じて、アイヌ文化を知る機会を提供し、共生社会に対する理解を深めることを目的として行う事業であり、体験の機会により効果が高まると考えられる。
(2) 成果目標、 (中間) 目標年度 (成果目標に対する現状値、 及び成果目標の達成見込み について記載すること)	(1) 文化振興事業 ■アイヌ文化学習見学会（民族共生象徴空間ウポポイ）」の総参加人数 (中間目標) 令和9年度 630名 (最終目標) 令和11年度 580名 (現状値) 令和6年度 685名 (3) コミュニティ活動支援事業 ■アイヌ文化体験学習会事業（イタンキ生活館）の総参加人数 (中間目標) 令和9年度 10名 (最終目標) 令和11年度 10名 (現状値) 令和6年度 10名
(3) 成果目標 の確認方法	KPI である全事業の総参加人数は実績値を市ホームページにて公表し、有識者会議で目標の達成状況について点検・評価を報告する。
7 地域の概要	
(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題	室蘭市域では、天然の良港を背景に、アイヌの人々の古くからの暮らしが遺跡や地名として確認される。特にアイヌ語の地名は、市域全体で100を超える箇所が記録されており、全道的に見ても多いと言える。 室蘭は、アイヌ文化に係る研究の蓄積も豊富で、アイヌ語学者として名高い金田一京助氏が、ユカラ（叙事詩）をはじめとするアイヌ語や口承文芸の研究に初めて取り組んだ地として知られており、また、アイヌ民族出身のアイヌ語学者である知里真志保氏、アイヌ語地名研究の第一人者として知られる山田秀三氏が、豊富なアイヌ語地名を基に共同で地名研究を行ったのも室蘭である。 知里真志保氏・山田秀三氏著「室蘭市のアイヌ語地名」には、アイヌは土地に対する捉え方を、そのまま地名として名付けていると書かれているが、室蘭市の絵鞆（えとも）半島外海岸（太平洋側海岸）では、ハルカラモイ（ハルカルモイ：食料とる入江）、増市浜（マスイチセ：海猫の家）、地球岬（ポロチケウエ：大きな断崖）、トッカリシヨ浜（トウカリシヨ：アザラシ岩）など、地名としてアイヌ語で名付けられた当時の自然や景観が、現在もそのまま残されている。このため、平成24年1月に国（文化庁）から「名勝ピリカノカ（美しい形）絵鞆半島外海岸」の指定を受けており、アイヌの人々の精神性や自然観・暮らしを現地で体感できる景勝地「生きた地名の地」と言われている。 室蘭市には昭和51年3月に社団法人北海道ウタリ協会室蘭支部が設立された。その後、平成26年4月に室蘭アイヌ協会へ組織を改め、これまでアイヌ文化の復興や伝承を図るとともに、絵鞆臨海公園内の先住民慰霊碑やイタンキ生活館を活動の拠点としてアイヌの伝統的儀礼を開催するなど、アイヌ文化等の発信を行ってきた。 また、室蘭市教育委員会では、アイヌ文化への理解を深めるために、む室蘭市民俗資料館におけるアイヌ民具をはじめとする関連資料の保存/展示のほか、アイヌ文化の解説を実施し、市内ではアイヌの歴史や文化を学ぶ機会の充実が図られており、市民の関心が高まりつつある。 こうした中で、令和5年度に本市学校教育の今後の道標となる「室蘭市子ども未来指針」を策定し、学校教育に、教員をはじめ、家庭、地域の様々な方が参画し、

	一体となって取り組んでいくことを位置づけるとともに、ふるさと室蘭に愛着と誇りをもつ教育の推進に向けて、これまでの総合的な学習の時間に関する機会の拡充を図るため、令和6年度より新たに「室蘭ふるさと学習」として、小学校1年生から中学校3年生まで、校外学習の拡充を図っているところである。 今後については、アイヌ文化の保存、振興、継続のための普及啓発として、民族共生象徴空間ウポポイなど、施設とアイヌ民具等の情報共有を進めるとともに、地元アイヌ協会と協力して、その伝統文化や歴史に関する体験学習会の開催に向けて計画している。 このことから、計画に伴う事業を一過性のものとすることなく、継続してアイヌ文化に対する理解を促進し、アイヌの人々の民族としての誇りが尊重される共生社会の実現に向けた取り組みが重要と考えている。
(2) 施設等の管理運営体制	室蘭市イタンキ生活館は室蘭市保健福祉部高齢福祉課が管理している。 室蘭市民俗資料館は、室蘭市教育委員会教育部生涯学習課が管理している。
(3) アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制	室蘭アイヌ協会と定期的に意見交換を行い、協力体制を維持している。

8 収支予算

(1) 収入の部

(単位:円)

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度予算額)	比 較 増 減	
			増	減
国庫補助金	846,000	0	846,000	0
市町村負担額	212,590	0	212,590	0
計	1,058,590	0	1,058,590	0

(2) 支出の部

(単位:円)

経 費 区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度予算額)	比 較 増 減	
			増	減
①文化振興事業	1,051,820	0	1,051,820	0
需用費	0	0	0	0
使用料及び賃借料	1,051,820	0	1,051,820	0
報償費	0	0	0	0
②コミュニティ活動支援事業	6,770	0	6,770	0
需用費	6,770	0	6,770	0
使用料及び賃借料	0	0	0	0
報償費	0	0	0	0
合 計	1,058,590	0	1,058,590	0
需用費	6,770	0	6,770	0
使用料及び賃借料	1,051,820	0	1,051,820	0
報償費	0	0	0	0